

21世紀を心たくましく生き 抜くために

～道徳教育の充実をめざして～

岡山県倉敷市立庄中学校

なかとうみつ お

中藤光男

【実践の内容】

近年、人間関係の希薄化や価値観の多様化など、生徒を取り巻く環境が大きく変化し、生徒の道徳性の発達を阻害している現象が多く見られる。その要因の一つとして、情報の氾濫、高度情報化社会時代の到来が上げられる。

そこで、本研究では、道徳教育におけるインターネットの活用により、高度情報化社会に生きる一員としての基盤になる考え方や態度（情報モラル）の育成、新しい教育に求められている「生きる力」の中核となる豊かな人間性や実践力の育成を図ろうとした。

【論文内容の紹介】

1 はじめに

「子ども達の3割しか学校に通えない。」リアルタイムでスウエーデンから届いたメッセージに生徒は、驚きの色を隠せなかった。道徳の時間に取り組んだ海外との協調学習のヒトコマである。

道徳教育の充実、現行の学習指導要領において、極めて重要な課題とされている。近年、生徒を取り巻く環境は、大きく変化し、人間関係の希薄化や価値観の多様化、インターネットの普及による高度情報化社会時代の到来、情報の氾濫など、生徒の道徳性の発達を阻害している現象が多く見られる。社会を震撼させるような特異・重大な少年犯罪も頻発し、極めて憂慮すべき状況に到り、「心の教育」の必要性が強く叫ばれ、緊急課題として学校教育に課せられ続けている。

本論文は、そういった状況を背景として、道徳教育の領域において平成11年度から平成16年度に亘り、取り組みを続けてきた実践・研究をまとめたものである。

2 研究のねらい

- (1) 学ぶ主体である生徒が生きる力を自ら育むための道徳教育の充実
- (2) 生きる力の中核となる豊かな人間性や実践力の育成

3 研究の視点

生徒の主体が活かされた学ぶ値打ちのある新たな道徳教育を展開し、研究のねらいを達成していった。

4 研究内容

- (1) 「生まれ変われ道徳の時間～道徳性の発達を促す魅力ある授業づくり」

〈平成11年度から平成13年度の実践〉

既存の読み物資料を中心とした授業展開からコールバーグ理論に基づくモラルジレンマ資料を用いた授業改善に取り組んだ。実践では、生徒の道徳性をさらに高めるためにインターネットを利用して討論に高次の認知能力や役割取得能力を外から取り入れる授業を展開していった。

- (2) 「生徒の道徳的実践力を高める道徳時間と体験活動との融合」

〈平成14年度・平成15年度の実践〉

魅力ある時間となった道徳時間の展開の中で、これまでの実践を踏まえ、「体験活動」と「総合的な学習の時間」「インターネット」の三つをキーワードとして、生徒の『道徳的実践力』の育成をめざした。

- (3) 「時代や宗教・異文化を越えての普遍的な道徳的価値（コモンモラルティ）に焦点をあてた道徳教育の展開」

〈平成16年度の研究〉

時代や宗教・異文化を越えての普遍的な道徳的価値（コモンモラルティ）に焦点をあてて、海外との協調学習を通して、その内面的資質の向上を図っていった。